

てい
だん
鼎談

子どもの可能性を 広げる体験として

文化・芸術の専門家が学校で授業を行う芸術の出前講座は、子どもたちが本物の芸術を早くから体験できる教育効果の高い事業です。

この事業が10周年を迎えるにあたり、鳥取市の教育、文化、行政を代表するみなさんが鼎談を行い、事業の効果や今後の展望について語り合いました。

☎ 本庁舎文化芸術推進課 0857-20-3229

子どもたちに可能性という種を撒く取り組み

竹内 芸術の出前講座は、文化団体協議会から「子どもたちに芸術に関わることを体験させたい。自分たちが積極的に出前講座を担当しよう」という申し出をいただき、平成17年にスタートしました。平成26年度は10周年を迎えますが、

これまでを振り返り、これからの取り組みの展望を先生方とお話をさせていただきたいと思っています。

まず、稲垣先生から、この事業の概要をお話いただきたいと思えます。

稲垣 希望される学校の中から1年に5校程度を対象に行っています。講座の内容は、美術部門では洋画、書道、写真、シルクスク

リーンなど、音楽部門では合唱、ギター、マンドリン、民謡、琴、尺八などがあります。その他、日本舞踊、演劇、朗読、民話、華道、川柳、短歌、作文など、いろいろなものを学校の希望に応じてやっております。

講師は文化団体協議会に所属する、各分野で日々研鑽（けんさん）しているみなさんです。講座では、子どもたちが実際に体験してもらうことを大事にしています。

竹内 先生方が学校に出向くことは、子どもたちに新鮮な芸術文化の内容を伝える機会になっています。本市としても大変ありがたい取り組みと考えていますが、こ

れまでの成果や評価についてどのようにお考えでしょうか。

稲垣 学校の先生もよくおっしゃいますが、子どもたちがこれまで見せなかった新しい姿や顔を、出前講座で見せてくれると感じています。この事業はそういう大きな刺激になっているのではないかと思います。

子どものころの私は「絵を描くことならクラスの誰にも負けな」と思っていました。しかし、先生に言われた言葉で、「もう絵は描かまい」と思ってしまったことがあります。中学校で書と出会えましたが、小学校の時にいい経験を持つかそうでないかでは、人

生を決めていくと思います。

そういう意味で「今、種をまくことで、将来すごい花が咲くかもしれない」と思いながらやっています。この事業を始めて10年になりますので、最初の子どものたちは社会人になるころです。どんな花が咲くのかがとても楽しみです。

講師のみなさんは、「子どもたちは凄い。私たちが見逃しているものが見えている」などと、口々に言っていて帰ってこられます。子どもたちは、純粋な目でものを見るので、講師も子どもから教わることが多いのです。

竹内 子どもたちだけではなく、講師のみなさんにとっても大きな効果があるのですね。

新鮮な体験を通して子どもたちの殻を破る

さて、柴山先生は鳥取市教育委員会会の教育委員長として本市の教育行政に関わっておられます。学校教育の中でこの取り組みが行われていることについて、どのように評価されていますか。

柴山 多くのジャンルの講師が携わっており、とても素晴らしい企画だと思います。ある県では、コーディネーターを育てて、授

子どものころの体験が、将来に大きく作用する



稲垣 晴雲 Seiun Inagaki

小中学校教員の書写指導や県内のさまざまな書道展の審査員や講師を務め、鳥取の書道発展および書道人口の底辺拡大と普及に尽力している。



芸術の出前講座では、マンドリン・絵画・書道など、あらゆる分野の文化・芸術活動が実施されている



(左) たけうち いさお
竹内 功
鳥取市長

(中) しばやま ほうかい
柴山 抱海
教育委員長

(右) いながき せいうん
稲垣 晴雲
文化団体協議会副会長